

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 118 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 118 回 : 2024 年 4 月 26 日 (金) 10:00~11:30

2. 場所 Web 開催 (Webex)

3. 出席者

(出席委員) 牟田主査, 桐本副主査, 喜多幹事, 高橋 (拓) 幹事, 丹野幹事, 橋本幹事,
佐藤, 栗坂 (西野委員代理), 岩谷, 生野, 香川, 吉川, 塩田, 小森, (14 名)
(常時参加者) 羽佐田, 多和, 寺島, 東 (4 名)
(委員候補) 竹中委員候補

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-118-1 第 117 回レベル 1 PRA 分科会議事録

P4SC-118-2 人事について

P4SC-118-3 文献アンケート_結果_調査方針

P4SC-118-4 文献 1 におけるスクリーニング調査結果

P4SC-118-5 「原子力発電所の確率論的リスク評価用のパラメータ推定に関する
実施基準」の引用状況

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 14 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 前回議事録確認

資料 P4SC-118-1 により, 前回分科会の議事録の確認を行った。

(3) 人事について

資料 P4SC-118-2 により, 三橋委員 (MHI NS エンジニアリング) の退任が報告され, 竹中
委員候補 (MHI NS エンジニアリング) の委員就任が承認された。

(4) パラメータ推定標準改定について

資料 P4SC-118-3 により, パラメータ推定標準の改定に向けた新知見の調査として, 文献

調査の進め方について紹介があり、この方針により進めていくこととなった。まずはスクリーニング調査のため、調査フォーマットは実施済みの例などを参考に随意とし、調査依頼を改めてメールにて通知する。主な議論は次のとおり。

- ・詳細調査についても、基本的にはスクリーニング調査と同一の担当とするが、フルペーパーが入手できないなどの場合には、適宜調整を考慮する。なお、現状入手できていない文献について、主査にて入手の可能性を確認してみることもあった。
- ・調査知見の反映先については、附属書が主体になると考えられるが、将来の検討候補などの参考情報については技術レポートなども考えられる。どのように反映していくかは、個々の調査結果や標準構成のあり方とも合わせて今後も議論していく。
- ・反映の範囲として、火災関連などのパラメータまで拡張するかは、調査の状況を見ながら検討していく。
- ・今回の最新文献の他、米国 ASME/ANS 標準などの規格・基準類も調査対象として可能な範囲で別途考慮する。

資料 P4SC-118-4 により、既にスクリーニング調査を実施済みの文献について調査結果の紹介があった。主な議論は次のとおり。

- ・文献 No. 71 に関して、現状のパラメータ推定では共通原因故障の経年劣化まで含めていないため、スコープ外としているが、推定の方法論の一つであれば詳細調査の上判断していくことも考えられる。詳細調査の要否について再確認する。
- ・文献 No. 57 に関して、評価事例であれば技術レポートなどへの反映も考えられる。反映の仕方については相場観など含めて今後も分科会で議論・決定していくので、詳細調査の要否について再確認する。
- ・文献 No. 58 等に関して、デジタル制御におけるソフトウェア故障は現時点ではパラメータ推定に含まれていないが、将来的な課題にはなり得る。今回改定ではないが次回以降の改定対象になるとも考えられる。詳細調査の要否について再確認する。

資料 P4SC-118-5 により、現状でパラメータ推定標準を引用している PRA 標準についての報告があった。改定するパラメータ推定標準の構成のあり方に関する今後の参考とする。各引用の状況などのさらに詳細な調査とも合わせて議論を継続する。

(5) 今後の予定について

次回分科会は、文献のスクリーニング調査後となる 7 月中旬を目途に改めて調整することとなった。

以上